

## —神奈川県湯河原町・真鶴町の環境変化と土地利用—

中 條 京 子

神奈川県西南端に位置する湯河原町は、古くから、温泉とみかん栽培で有名だった。また、隣りの真鶴町は、漁業に加えて、良質の輝石安山岩である小松石の産地として知られていた。

ところが、今日、湯河原町及び真鶴町の在来産業はあまりふるわない。一方、収入の安定するサラリーマンは日ごとに増え、町は、大都市郊外のような性格を見せるようになってきた。大都市との距離がかなりあれば、人々は無理をしてでも、在来産業をのぼす方向に努めたにちがいない。が、実際はそう遠くないので、かえって大都市への通勤者を増やす結果となってしまった。湯河原町、真鶴町の人口は、全体に増加しつつあるが、単にどの産業も一様にのびているわけではなく、実は、古くからの産業の不振のうえに、大都市通勤者のみが著しく増加していることがわかった。今や両町では、生産機能より、むしろ通勤住宅機能の方が主になりつつあるといえる。

湯河原町・真鶴町の土地利用及び地域構造の変化の直接的要因には、(1)東海道新幹線敷設の際に、トンネルの捨土を使って、湯河原駅付近を広く埋めたこと、(2)みかん生産過剰・価格低迷により、みかん農家の収入が著しく下がったこと、(3)

湯河原温泉の揚湯過剰により、温泉の水位及び泉温の低下や泉質の変化など、温泉観光業を脅かす現象があらわれたこと、(4)真鶴道路(新道)敷設により、自動車が真鶴半島を通過するようになったこと、などがあげられるとわかった。

湯河原町・真鶴町の地域構造は複雑である。両町は大部が山林であり、山林以外の部分はとても狭い。それなのに、各地域ごとに相互依存することもなく、別の産業が発展しており、景観は、場所によって全く異っている。このような、モザイク状の土地利用状況をつくらしめた理由の一つとして考えられるのは、まず、狭い範囲にいくつもの資源が分布していたことである。そして、それに加えて、町が地形的に入りこんでいるということも、大きく影響している。低地が、とても複雑な平面的広がりを見せているため、地区同士の連絡が少なく、あたかも別々の町であるかのように発展したのだと考えられる。

湯河原町・真鶴町の土地利用には、先に述べた4つの要因に加えて、人々の生活様式の変化、価値感の変化、時代の流れなど、さまざまな社会的経済的要因はもちろんのこと、気候や地形的制約など、自然条件も大きく関与しているといえよう。

## 関東における城下町の形態とその変遷

堤 佳 代

(1)目的と方法：現代の様々な都市問題を解決するには、都市空間における祖先の営みを明らかにする事も必要であると考え、本研究では、川越を対象地域として、城下町の成立、及びその変容を明らかにすると共に、川越の位置する関東における城下町の特性をも明らかにしようとして試みた。その際、我々人間の諸活動は地表面に投影されると

いう観点から、屋敷割や道路の形状、及び土地利用状況等の形態の考察に重点をおき、都市空間における歴史的空間的変遷の究明に努めた。そこで、まず、基本的文献調査を行った後、現地での観察・聴取、各時期ごとの復原図の作成、及び文献史料調査を行って、本研究を進めていった。

(2)本論文の構成：本論文は5章より成る。第1